

# 関節リウマチ ～治療薬の進歩～

## はじめに

**関**節リウマチ（Rheumatoid Arthritis：以下RAと略します）は、関節の腫れ、痛み、こわばりなどの関節症状が慢性的に続き、放置すると関節が壊れてしまう病気です。また、時に関節以外（肺、胃腸、腎臓など）も侵されることがあります。原因は不明ですが、さまざまな研究から関節が壊れてしまう理由が近年になり分かってきました。そして、その知見に基づく新しい薬物が次々と開発され、治療成績が飛躍的に進歩しています。

## 関節リウマチとは？

**す**でに述べたように、RAは主に関節が侵される病気です。かつてクレンペラーという病理学者が膠原病という疾患群を提唱しました。その中のひとつがRAです。他の膠原病には、全身性エリテマトーデス・強皮症・多発性筋炎・皮膚筋炎・多発性動脈炎などがありますが、いずれも原因不明の関節症状を伴うことがあり、RAとの鑑別診断（見分け）が必要となります。RAの有病率はおおよそ0.5%であり、日本においては約60万人の患者さんがいることとなります。決してまれではないのです。男女比は約1：4で、女性に多く発病します。発病年齢は40～50歳代に多いのですが、どの年齢でも発病しうる病気です。

## 関節リウマチの診断

**R**Aの原因が不明であるため、原因に基づいた診断法はありません。しかし長年の臨床経験の蓄積から、参考とすべき診断基準が提唱されています。医師はそれを参考にして、RAが否かを判断するわけですが、もっとも重要なことは関節症状を伴う他の病気との鑑別となります。RAよりはるかに多い変形性関節症をはじめ、他の膠原病、痛風、偽痛風などの鑑別が重要となります。RAを診断する際に、重視することとして、関節炎の有無が挙げられます。関節炎には、「痛み」だけでなく「腫れ」、「熱感」、「発赤」が認められるのです。この炎症の有無あるいは程度については、血液検査も参考になります。医師は、関節症状・血液検査・レントゲン検査などを組み合わせて診断を行います（表1）。

表1 関節リウマチの診断時に参考となる特徴的な症状、検査所見

- ①関節に腫れを伴う痛みがある
- ②手指や足指の関節に症状がある
- ③関節のこわばりが続く
- ④血液検査で特徴的な抗体（リウマトイド因子、抗CCP抗体）が陽性
- ⑤血液検査で炎症（CRPや血沈が高値）がある
- ⑥レントゲンで関節に特徴的な変化がある

## 関節リウマチの治療

**抗**リウマチ薬にのみ関節破壊を抑える効果が期待できます。そして治療で最も重要なことは、抗リウマチ薬と分類される薬の中で適切な薬を選択することです。では、どのようにして選択するのでしょうか？ 実は、すべての抗リウマチ薬がすべての患者さんに効くということではありません。また、合併症の有無あるいは程度によって使いづらい抗リウマチ薬もあります。さらには薬価の問題もあります。それらを総合的に考慮して抗リウマチ薬を選択することになります。そして、その効果や副作用を判断しながら、治療を続けることとなります。かつて抗リウマチ薬の選択肢が少なかった時代がありました。効果が不十分であった場合でも、他に選択肢がなく関節破壊が進行してしまう時代でした。現在では、抗リウマチ薬が15種あります（表2）。また、近年登場してきた生物学的製剤などの新薬は、強い抗リウマチ効果が認められており、選択の広がりとともに画期的進歩をもたらしています。

表2 日本で承認されている抗リウマチ薬の一般名（平成22年5月現在）

免疫調節薬	金チオリンゴ酸ナトリウム・オーラノフィン・D-ペニシラミン・サラゾスルファピリジン・ブシラミン・ロベンザリッド・アクタリット
免疫抑制薬	メトトレキサート・ミゾリピン・レフルノミド・タクロリムス
生物学的製剤	インフリキシマブ・エタネルセプト・トシリズマブ・アダリムマブ

## おわりに

**そ**れでは、すべての患者さんに新しい抗リウマチ薬を処方すべきなのでしょうか？ もちろん、そんなことはありません。現在の治療効果が十分であれば、それを継続すればよいのです。重要なことは、効果や副作用の有無を定期的に確認するということです。

（富岡 重人）



## 休日・夜間の急病診療制度の利用

まず、かかりつけの医師に相談してください。  
かかりつけの医師が不在、近所の医療機関で診療が受けられない方は

**☎042(756)9000**  
相模原救急医療情報センターへお電話してください。

	午前9時	午後1時	午後5時	午前9時
平日	[診療時間]			
土曜日	[診療時間]			
休日	[診療時間]			

...電話受付時間

### 市民のみなさんへお願い

診療可能な医療機関を案内します。  
医療相談・歯科案内は行なっておりません。  
急病で困ったときに利用してください。  
**応急診療**が目的ですので、翌日はかかりつけの医師または近所の医師の診察を必ず受けてください。  
**健康保険証**を必ず提示してください。されない場合は自由診療扱いとなり、費用が高額になります。  
救急車は、生命に危険が生じた患者さんを一刻も早く運ぶためのものです。安易な利用は避けてください。  
歯科の急病については休日急患歯科診療所 ☎042(756)1501へ  
(ウェルネスさがみはら2階)  
服用している薬がある場合は、お薬手帳もしくは処方された薬をお持ちください。